

## 下顎の親知らずの抜歯

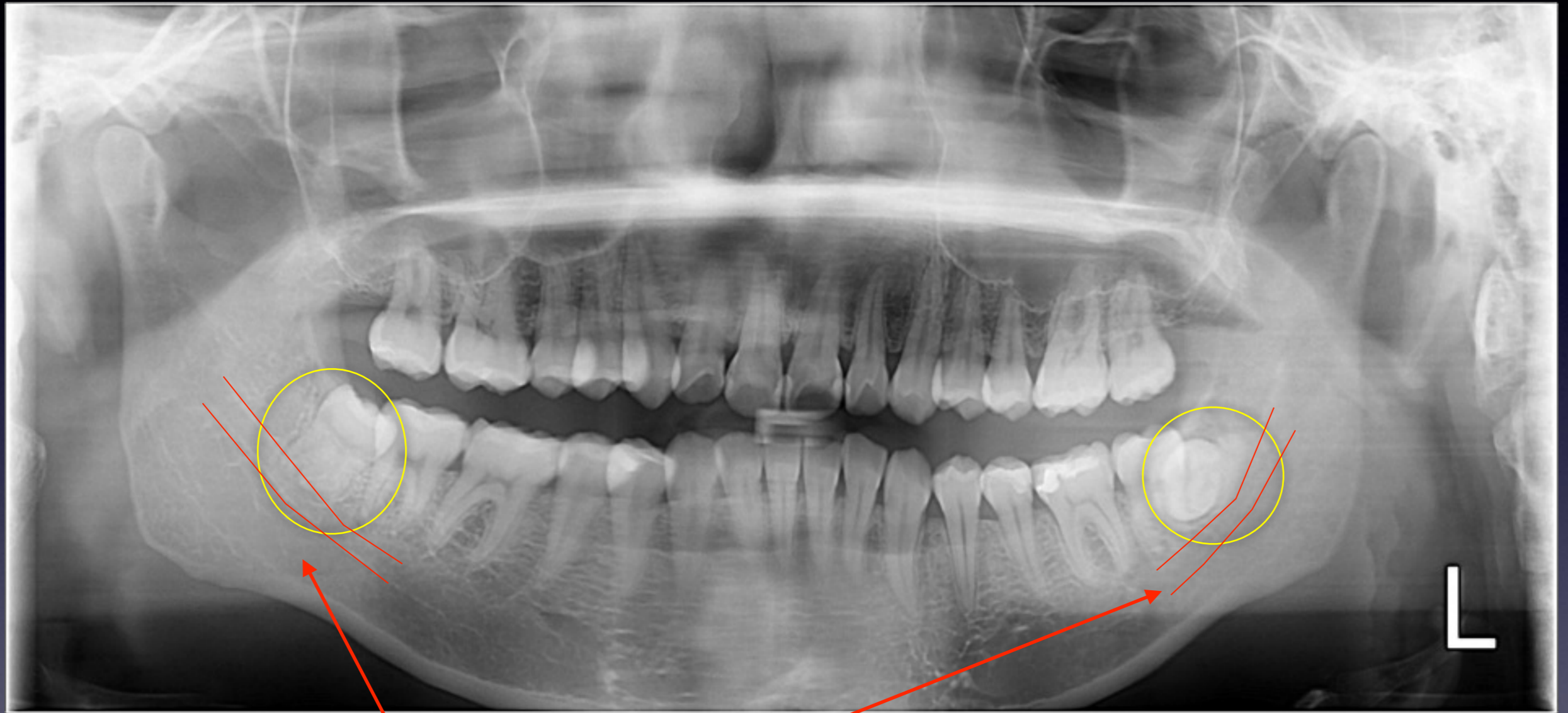
親知らずは第三大臼歯の別名で、現代人はまっすぐ生えている例は少なく、一番奥に位置する為に、プラークコントロールが非常に困難です。その結果、歯肉が腫れたり、虫歯や歯周病になりやすい歯です。

親知らずを抜歯をする場合は、下顎骨の中を通っている太い血管や神経が入っている下顎管との位置が問題となります。通常のX線写真では平面に投影された像ですので、3次元的な位置関係を事前に診断する事は不可能です。CT撮影により正確な3次元診断が可能となります。

# 下顎の親知らずの抜歯例 20代女性



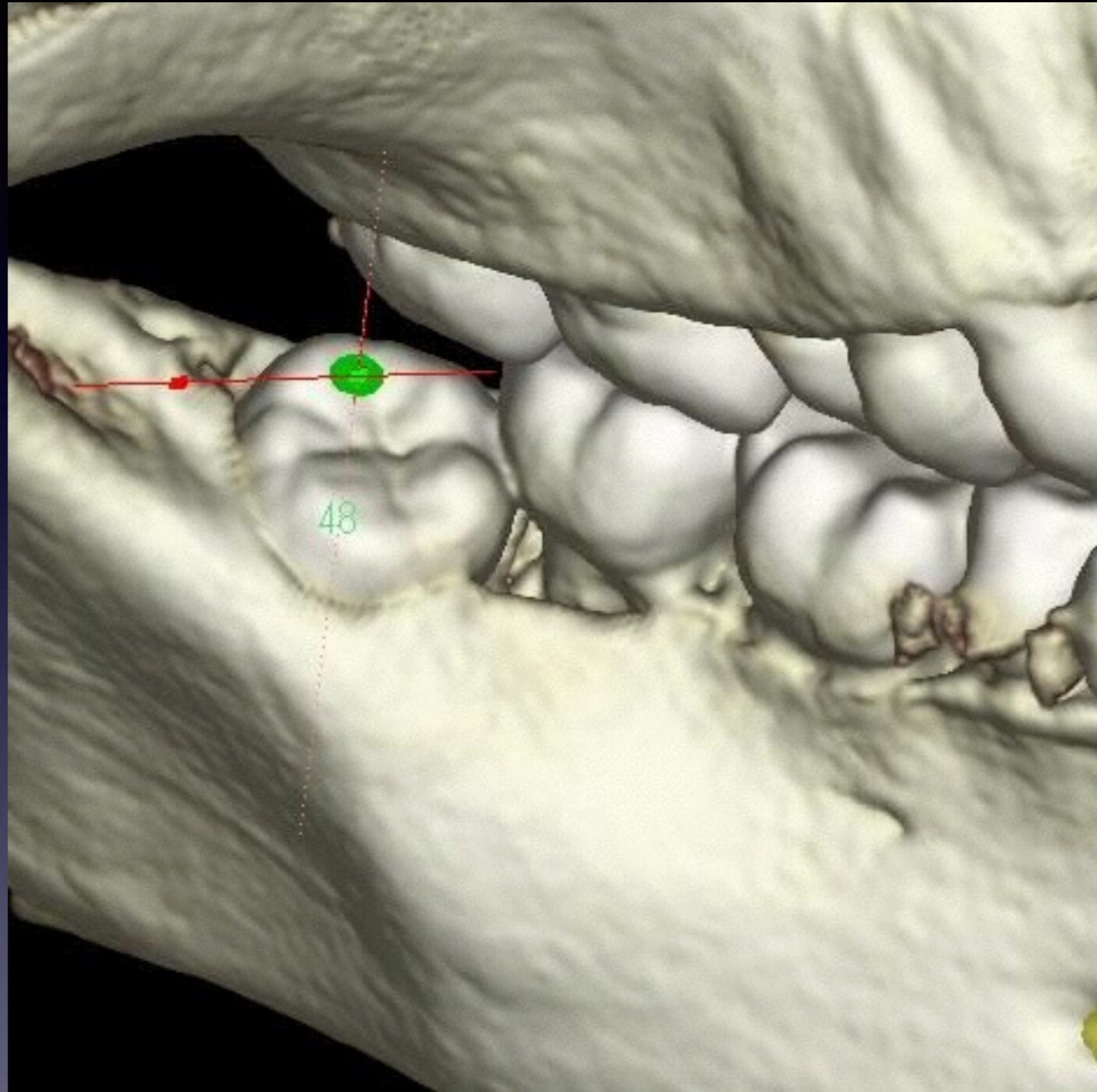
# 下顎管との位置が重要



下顎管

通常のX線写真では手前の歯との位置関係や  
下顎管までの距離がわからない

# CT画像で見た右下親知らず



親知らずは上を向いて生えているが、約45度回転している。

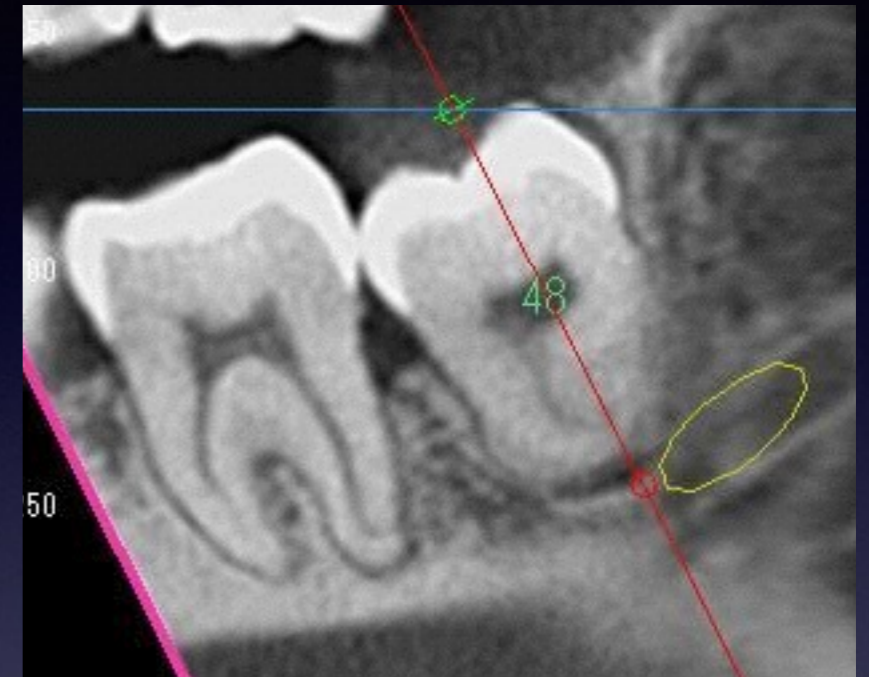
手前の歯の頬側の骨が一部無くなっている→将来歯周病が進行する恐れがある。

CT画像は様々な方向からの診断が可能です。

頬側から

前方から

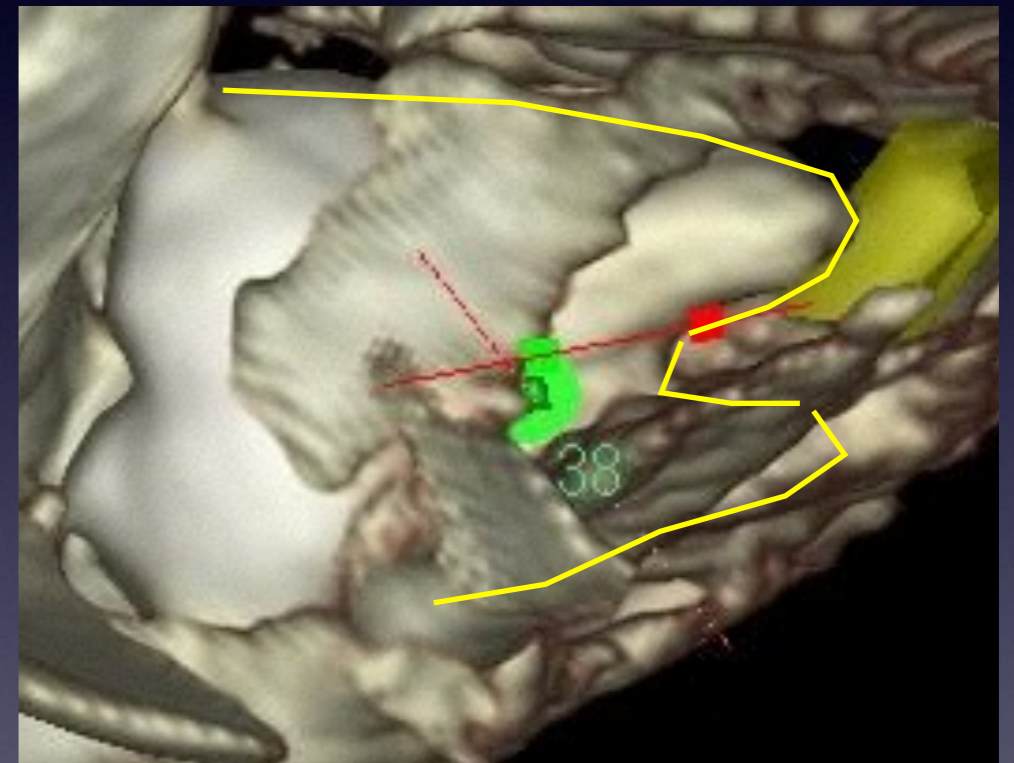
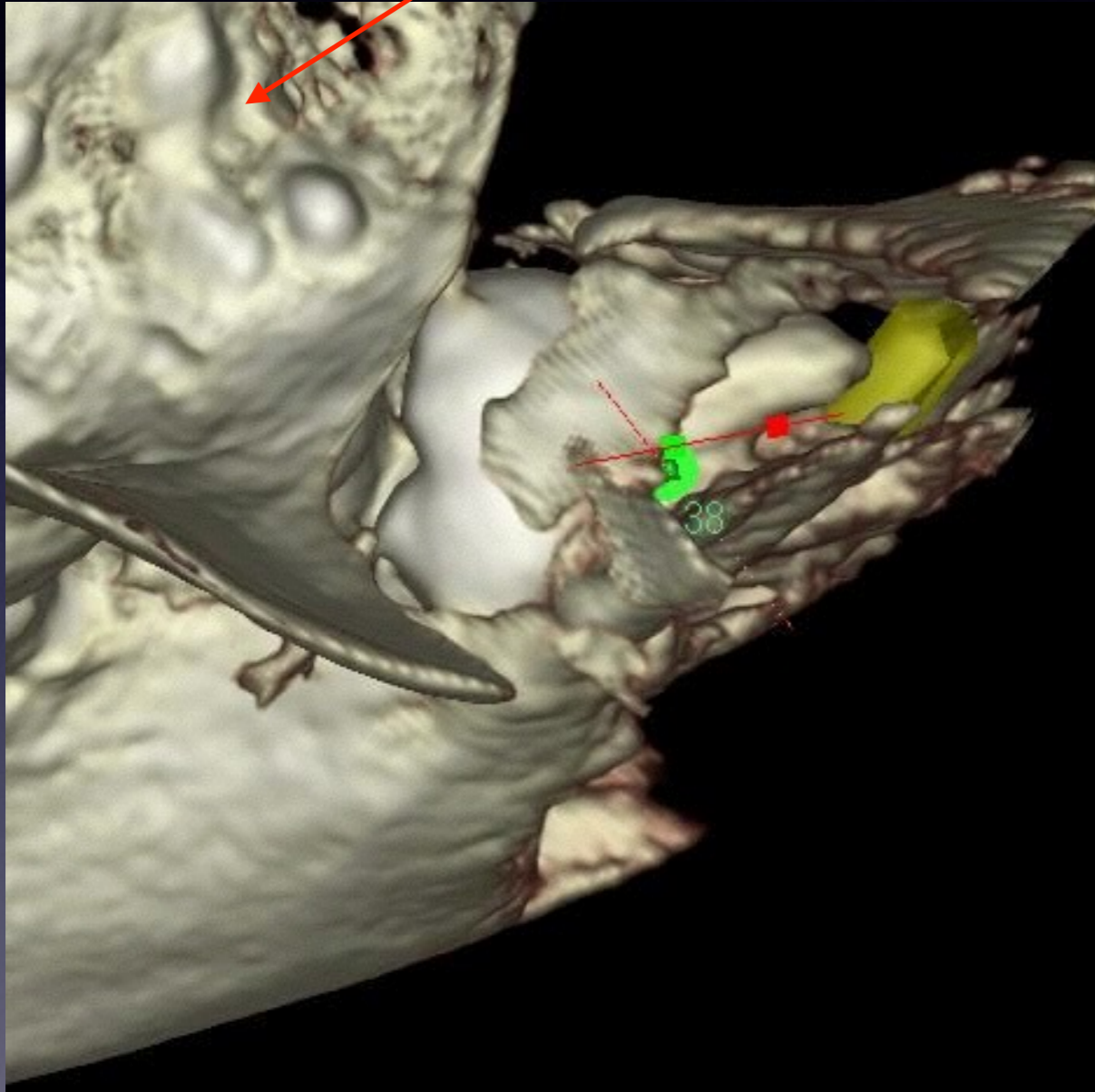
舌側から



黄色の部分の下顎管で、根の先端付近にあります。  
根の先の形は二股や曲がっていないことがわかります。

# CT画像で見た左下親知らず

手前の歯



根が2つに分かれている事がわかります。  
根の間に骨を挟み込んでいるので留意が必要

# 左下親知らずのCT画像

頬側から



前方から



舌側から



ほぼ全部が水平的に骨の中に埋まっていて、手前の歯の根に近接しています。根の先端部は下顎管に非常に近いところにあります。



## 抜歯後のパノラマ写真



右下は抜歯後半年経過。抜いた部分に骨が出来てきています。  
左下は抜歯後間もなく、順調に治癒をしてきています。

## 親知らず抜歯のCT診断のメリット

従来の2次元のX線写真では、3次元的な根の形態や下顎管までの距離や位置関係が診断出来ません。CT撮影により、これらの診断が正確に出来るため、安全に抜歯を行う事が可能となります。

注：当院では上に挙げた難症例も、ある程度対応可能ですが、ケースによっては病院の口腔外科に紹介する場合があります。